

# 送ることば

校舎を包み込むような温かな日差しに、たしかな春の訪れが感じられる今日のよき日に、旅立ちの日を迎えられた卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

先輩方は、三年前の春、真新しい制服に身を包み、期待と不安を胸に、この信夫中学校に入学されました。それから今日を迎えるまで、友情を育み、部活動に打ち込み、勉学に励んでこられた先輩方の胸には、今、様々な思い出があふれていることでしょう。

先輩方は、私たち在校生にとって、憧れであり、目標でした。目を閉じれば、先輩方の自信と活気に満ちあふれた姿をありありと思い出すことができます。

部活動では、「真剣に打ち込むことの大切さ」を私たちに教えて下さいました。記録的な猛暑の中、校庭や体育館で流した、たくさんの汗。のどがかわるまで声を出し合った最後の中体連。心をついに、聴衆の心に響く音色を奏でたコンクール。どんな苦しい練習にも音を上げずに、仲間と励まし合いながら部活動に打ち込む先輩方の背中には、私たちに「本気を出しているか?」「全力で打ち込んでいるか?」と問いかけるかのようにでした。私たちは身の引き締まる思いと同時に、こんな先輩を目標にしてよかったという思いを抱きました。

最大の行事である紫苑祭では、学級や学年だけでなく、全校が目標に向かって一致団結し、一つのことを成し遂げることの素晴らしさを、私たちに示して下さいました。会場いっぱいに響き渡った先輩方の歌声、私たち在校生へのメッセージが込められていた学年発表、全国一位に輝く吹奏楽部の圧巻の演奏。先輩方のすばらしい発表を見て、私たち一人一人大きな感動を抱きました。

毎日の生活の中でも、先輩方は私たちにとってかけがえのない、大きな存在でした。私たちのあいさつに、いつも優しく微笑みながら、力強いあいさつを返して下さいました。それだけでとても安心した気持ちになることができました。悩んでいるときは、真剣に話を聞いて下さり、相談に乗って下さいました。どんなときでも私たちを受け入れて下さる、その心の広さと優しさにどれほど救われたかわかりません。

いつも優しく、そして力強く私たちを導いて下さった先輩方とお別れすることを思うと、寂しさと不安で胸がいっぱいになります。それでも私たちは、先輩方からいただいた大切な思い出を胸に、先輩方に見せていただいた強さと優しさ、そして、信夫中学校の伝統をしっかり受け継いで、県下に誇れるものに発展させていくことを誓います。

先輩方は、これからご自身の夢に向かって歩んでいかれます。たくさんの新しい出会いがあり、新たな目標が生まれることでしょう。そして時には、その歩みを止めてしまうような大きな壁にあたるかもしれません。そんなとき、この学舎で培われたご自身の力を信じ、育まれた友情を信じ、諸先生方の教えを思い出して下さい。先輩方なら、その思い出を新たな力として、きっとその壁を乗り越えていかれるものと、私たちは信じています。これからの輝かしい人生の道のりを一步一步、確実に進まれることを、在校生一同心から願っています。

最後になりましたが、卒業生の皆様のご健康と、ますますのご活躍をお祈りし、送ることばといたします。

令和2年 3月13日

在校生代表 松本みのり